

引導下炬

其れ仏心とは大慈悲是なり。無縁の慈を以て諸々の衆生と摂し給うと。

導師作法

爰に新帰元 俗名 ○○○○、贈る戒名を○○○○○○居士と号す。

憶うに人の身を受けて生きたる群萌、その数はかり難い中に一念を起こして人の世と貫き通す者は洵に稀であります。素よりこれはその生きたる信念の浅深によることは申すまでもありませんが、またその人の受けてきた良き因縁のしからしめるところでもあります。

今静かに思いおこせば、靈位は、兵庫県○○市に生とうけ、身体壮健、その性格は質実剛健、而して意気に感じて純情を燃やし、その人生と一生懸命に生き働きつづけてくれました。大学卒業後は、○○新聞、また○○新聞の記者として精励され、新聞記者退職後も、その文才と遺憾なく發揮されてきたことと聞き及ぶところです。また、縁あって○○○○の地に居を構え、2人の子、1人の孫にも恵まれました。

されど人生の苦楽は、糾える縄のごとく悲喜交々の現世で、一度は家族が疎遠になることもありましたが、貴方を突然襲った病魔と機縁に再び家族が寄り添うに至りました。その家族に支えられ、懸命な治療を続けるもその効果及ばず、終には齢まさに天寿を尽くし、享年八十〇歳と生き終え、今日静かに、浄土への旅立ちと相成りました。

此のなまみの身体を持つかぎり、病むことは、そして命終る日を迎えねばならぬということは、だれひとりとして逃れる事の出来ない哀しい定めであります。

既にして、その身の上に起つて来たことは、そして、どうしても逃れる事の出来ないものは、そのままに、正しく受けて行くより道はありません。闘病の日々をささえ世話してくれた家族親族、その人たちの、深い愛情に感謝して、その世話を受けることが出来たことを此の世の幸せとして、どうぞ安らかに如来のみ国にお帰えりください。本日葬送の儀に臨み、家族、親族、共に集い、共に合掌して阿弥陀如来のみ名を称してここに貴方をお送りいたします。どうかお浄土に在りて、先に旅立った家族とともに、後に残りしご家族を見護りつつ、ほほえみの中に生き給わんことを念じ上げます。

無常の中にあつて無常を超える道、哀しみの中にあつてその哀しみを超えてゆく道、凡夫なる私どもにとって、それは専称南無の一行あるのみでございませす。

新歸元、〇〇〇〇〇〇居士、靈位、今、多生廣劫を経て生まれ難き人界に生まれ、無量億劫にも遇い難き仏教に逢えり。この度、生死を離るる道、淨土に生まる。彼の國に生まるること、ただ弥陀の本願に乗り、生死の海を渡り、極樂の岸に着くべきなり。

阿弥陀仏、かねて末代の衆生を憐み、無上殊勝の大願を起こし、易修易行の念仏をもって直ちに往生を得せしめ給う。これを念仏往生の本願と言う。すなわち無量壽經に曰く、もし我れ仏を得たらんに十方の衆生、至心に信樂して我が國に生ぜんと欲して乃至十念せんに、若し生ぜずば正覺を取らじと。

まさに知るべし、本誓の重願空しからず、衆生称念すれば必ず往生することを得。

今当に靈が往詣樂邦の首途に臨んで一句錢別せん。

諦かに聴け、諦かに聴いてよく之を思念せよ。

釈迦はこの方より發遣し、弥陀は彼の國より來迎し給う。かしこに喚びここに違ふ。あに行かざるべけんや。

松明放下

莫謂西方遠 唯須十念心 (十念)

後段訳

今、私たちは非常に長い間(多生広劫)輪廻を繰り返してもなかなか生まれることのできない人間としてこの世に生まれ、また数限りないほど長い時(無量億劫)を経ても巡り会うことのできない仏教の教えに出会うことができました。

この度、迷いの世界(生死)と離れる道、すなわち淨土に生まれるのです。かの極樂淨土に生まれることは、ただ阿弥陀仏の立てられた本願に身をゆだね、海のように広い迷いの世界を渡り、極樂の岸にたどり着くのです。

阿弥陀仏は、あらかじめ、お釈迦様がなくなって相当の期間が経過した時代の私たちのような者たちを深く憐れみ、この上なく優れて特別な誓い(無上殊勝の大願)をたてられました。そして、修めやすく行いやすい念仏によって、直ちに淨土に往生できるようにしてくださりました。これを「念仏往生の本願」といいます。

すなわち、『無量壽經』には、次のように説かれています。「もし私が仏になっ

た時に、あらゆる世界の人々が、心から（至心に）私を信じ慕い（信樂して）、私の国に生まれたいと願ひ、わずか十回でも念仏を称えるのに、もし彼らが往生できないようであれば、私は決して仏の悟りを開かない（正覺を取らない）」と。そして今、阿弥陀様のこの重い願ひは実現し、私たちが念仏を称えれば、必ず浄土に生まれることができるのです。

今まさに、安らかな浄土（樂邦）へ旅立つ門出にあたり、最後に一句を贈ります。よく聞いてください。よく聞いて、この教えを心に深く念じてください。

お釈迦様は、この世（娑婆）から「行きなさい（發遣）」と送り出してください、阿弥陀様は、あの極樂浄土から「迎え入れよう（來迎）」としてくださっています。あらから呼び、こらから送り出すのです。あなたは必ず往くのです。

莫謂西方遠 唯須十念心（西方（極樂浄土）は遠いなどと言うなかれ。ただ十念の心（念仏を称える心）をもらいければよいのです。）

浄土宗西山深草派 高城山 歸命院 十念寺 沙門 賢空

参考文献…四季社 浄土宗下炬事例別集成